

# 社会で求められる対人能力とは

愛知学院大学教養部教授(言語学) 佐々木 真

学生の就職活動では、コミュニケーション能力が重要とされている。だが、現実にはどのような能力が必要かについては、採用する側もされる側も、漠然ととらえているのが実情ではないだろうか。

コミュニケーション能力が「あいさつや電話対応ができる」といった対人能力を示す場合もあれば、自社の製品をアピールできるプレゼン能力と考えるところもあるだろう。あるいは「報告・連絡・相談」という行為に求められる能力かもしれない。

これら多岐にわたる能力も「コードスイッチング」という観点でとらえると、相互の連動性が見えてくる。コードスイッチングとは社会言語学の概念で、ある言語体系(コード)を場面や用途によっ

て切り替えることである。

コードは必ずしも独立した言語である必要はなく、方言もコードの一つである。例えば、家族や友人とは地元の東北弁や関西弁で話すのに、仕事や公的な場面では標準語に切り替える。これがコードスイッチングの例である。この場合は地域的なコードの切り替えであり、発音のみならず、語彙や文法表現でも切り替える。

さらに、コードには社会的なものも含まれる。学生は同年代で使われる「若者のコード」は使えませんが、企業・社会活動で求められる「大人のコード」には不慣れであるがゆえに、就活の際にうまく切り替えができないようだ。

ここでいう「大人のコード」とは広範囲な年代で公的に使用する

コードであり、新聞のような活字メディアや、学術分野で使用されるコードと類似している。また定型表現の有無や敬語、文書構成の方法、あるいはお辞儀や名刺の渡し方などの非言語行為も、このコードの中に組み込まれている。

核家族化やIT(情報技術)の発達は、若者が「大人のコード」に接する機会を減少させてしまったのではないだろうか。私は新入生の授業で大人のコードについて説明し、それに慣れるためにも新聞のような活字表現と、若者のコードで使用される表現との言い換えを課題にして指導している。

まずは、大人の言語行動様式は若者とは異なるという認識を、広く学生たちに共有していくことが大切である。